



つやぎきつず

学力テスト結果報告 特別号
 令和6年10月18日
 福津市立津屋崎小学校
 校長 西田 剛信

全国学力・学習状況調査，福岡県学力調査の結果について

令和6年度の全国学力・学習状況調査（4月実施，国語・算数，6年生対象）と福岡県学力調査（6月実施，国語・算数，5年生対象）の結果が届きました。福津市教育委員会の方針に基づき，本校の結果についてお知らせします。

全国学力・学習状況調査の平均正答率，児童質問紙の結果等の比較(6年生対象)

平均正答率	国語	算数	児童質問紙 (%)	自分にはよい所がある	夢や目標をもっている	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	平日の家庭学習は1時間以上勉強している	地域や社会をより良くするために何かしてみたいと思う	地域の行事に参加している
津屋崎小	やや下回っている	やや下回っている	津屋崎小	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ	下回っている	ほぼ同じ	やや下回っている

左の表は，全国の平均正答率を100として相対的に比較したものです。国語・算数ともに，全国平均をやや下回っています。いずれも「思考・判断・表現」を問う問題に課題があり，特に，国語では，漢字を文の中で正しく使うこと，算数では，表から必要な数値を読み取って式に表し問題を解くことに課題があります。基礎基本の定着を一層図り，指導の見直しを行っていきます。しかし，ここに表れているのは「学力の特定の一部」です。この結果だけからは見えにくい「学びに向かう力」等，子どもが自ら自己・他者・社会を探究する中で，つながりを実感し，よりよく創り上げていこうとすることを大切にしていきます。

右の表の児童質問紙は，肯定的回答の合計を比較したもので，福津市のめざす子ども像に合う，6つの項目について報告します。自分自身に関する2項目は，全国や県の平均と「ほぼ同じ」値になっています。また，規範意識や社会性に関する2項目については，全国や県の平均と比べて「ほぼ同じ」，もしくは「下回っている」となっています。地域や社会に関する2項目については，全国や県の平均と「ほぼ同じ」もしくは，「やや下回っている」となっています。このことから，地域コーディネーターや学校，地域，家庭が連携し，協働して取り組んできたことが一定の成果となって表れていることがわかります。今後も，「社会とつながり，主体的に考え，判断し，行動する子どもの育成」に努めていきます。

福岡県学力調査 平均正答率等の比較(5年生対象)

平均正答率	国語	算数
津屋崎小	ほぼ同じ	ほぼ同じ

左の表は、福岡県の平均正答率を100として相対的に比較したものです。国語・算数ともに、県平均と比べてほぼ同じです。これらから、

基礎的な学力について、おおむね身につけていると言えます。いずれも、「思考・判断・表現」を問う問題に課題があり、特に国語では、目的や必要に応じて自分の考えの理由を挙げて書くこと、算数では、条件に合う時刻を求めることに課題があります。基礎基本の定着を一層図るとともに、根拠を示しながら自分の考えを表現する場面を増やし、表現する力を伸ばしていく必要と考え、指導の見直しを行っていきます。

今後の改善の取組

○ 主体的に学ぶことができる授業の充実

自分で課題を見いだしたり、複数の課題から選択・自己決定したりするなど、自分自身で考え、判断し、行動できるような場면을授業に位置づけるよう改善していきます。また、デジタルツール等を活用し、説明したりプレゼンテーションしたりするような学習をより一層展開し、さらに子どもが夢中になる授業、深く探究する授業へと充実させていきます。

○ 子どもに基礎基本の定着を図る取り組みの充実

基礎基本の定着に関しても、授業内だけではなく朝の活動の時間やブロックタイム等、学校教育全体を通じて取り組みを行っていきます。朝の活動では、各学年で重点的に付けたい基礎力を決め、10分間集中して課題に取り組むことで基礎学力の定着ができるようにしていきます。朝の活動の取り組みの成果をミニテスト等で確認しながら改善することで、内容を充実させていきます。さらに、毎年行ってきたブロックタイムでは、今年から学年ごとで実施することとし、必要なタイミングで必要な内容を定着できるようにしていきます。

○ 「ふるさと学習」の充実

津屋崎小校区は、「ふるさと学習」の素材の宝庫です。コロナ禍で自粛していた地域の行事も新たな形に生まれ変わり、活気とともに復活しています。今後も更に、地域コーディネーターや学校、地域、家庭が連携し、協働して取り組んでいくことで、自己有用感や地域への愛着、参画意識を高めていきます。

